

## (平成30年度自己評価公表シート)

## 1. 本園の教育目標

「強く、正しく、美しく」を建学の精神とし、「基本的生活習慣を身につけ、たくましい心身や思いやりの心を育て、よく考えて行動できる子どもを育成する」を教育の目標として日々の保育に取り組む。

幼児期にふさわしい生活が送れるよう、異年齢交流や自然観察の機会を多く取り入れ、直接的な体験学習をし、伸び伸びと「自主・協力・創造」する力を培う保育を展開する幼児教育を目指している。

## 2. 本年度に重点的に取り組む目標や計画

自己点検・自己評価を行い、下記の点について重点的に取り組む

- 1、教師が客観的に保育を振り返り、保育計画を見つめなおす。
- 2、子どもが主体的に過ごせる環境づくりや保育の質を高める。
- 3、就学までに育てたい子どもの姿を明確にし、教職員間で共有する。
- 4、教職員間の同僚性を育てる。
- 5、異年齢保育の充実

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
ア. 客観的に自らを振り返られるよう、教師間での打ち合わせの機会を多く持つ。	保育の信頼性を高めるため、ミーティング・学年会議などで、細かな打ち合わせが出来る機会を多く持つよう努めた。 各自の振り返りや子どもの成長への共通理解を図り、時間がかかるものの各々が責任を持って対応出来るよう話し合いができた。
イ. 園の特色を活かした保育計画を編成し、実施にあたって教職員間の共通理解を図る。	建学の精神や教育目標に基づいた教育課程を編成している。専門講師によるあそび、食育や自然活動、直接的な体験活動を通して、挨拶などマナーや社会ルールが自然と身に付く保育が実践できた。又、行事数を減らし子どもの普段の様子を見る機会を多く持つようにしたため、教職員間で共通理解は出来ているものの対応にばらつきがあるので、きめ細やかなすり合わせをしていきたい。
ウ. 子どもがすすんで遊びを考え工夫できる環境を整備する。	教職員が日々の観察を通して子どもの育ちやあそびを共通理解できたことで、様々な用具・おもちゃなど工夫しやすい環境を整えることができた。
エ. 保育向上のため自己研鑽をつむ。	外部研修へ積極的に参加し、教職員間でのフィードバックを行い、保育に活用した。特に幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を再確認し子どもの育ちについて話し合う機会を持ち、全学年で情報共有できるよう努めた。

<p>オ. 日々の記録から子どもの育ちについて話し合い、情報を共有し家庭との連携を深める。</p>	<p>日々の記録を基に、普段見えにくい子どもの育ちをポートフォリオと懇談で家庭との連携が深まり、子どもの成長を肯定的に捉えることができた。教職員間では育ちの状況を話し合うことで小学校教育との連携がスムーズに行えているものの、行事の意義についてを保護者に上手く伝えきれていないため、今後も情報提供を充実し理解を広げていけるよう努める。</p>
<p>カ. 異年齢保育の充実</p>	<p>その日の出来事の情報共有を図るようにしている。園での出来事は即座に対応することができた。</p> <p>たてわり保育、チーム保育を行う中で他学年との話し合い時間が短く、個々の対応に困る場面があったり、朝や降園前の自由あそびだけではなく異年齢同士の育ち合いを目指しスケジュールを組んではいたが、うまく進まない場面もあったので、たてわりやリーダー会議の機会を増やせるようにする。</p>
<p>キ. 先輩と経験の浅い先生がペアとなり指導体制を整え、同僚性を育む。</p>	<p>主任やリーダーは研修でのアドバイザーの経験から、教員の保育の悩みなどの相談にのっている。また、チーム保育にて経験のある先生と経験の浅い先生がセットになり、指導を行う。指導者は経験の浅い先生の不安を汲み取れるよう、同僚性を育む機会を持っているが、経験不足からくる自信のなさから自己発揮できずにいる人材もあったので同僚性を育み保育の質を高められるよう努めていきたい。</p>

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>日々の観察や情報共有で子どもの成長や子どもへの理解が一層深まり小学校教育への接続が十分に行えた。一方、他学年との異年齢保育やチーム保育を行う機会があってもスキル不足や教員の自信のなさから子どもの力を十分に発揮させるところまで至らずにいた。全ての先生が活躍し、家庭の協力を得ながら子どもたちが生き生きと活動できる環境づくりと、教育の質を高める努力を今後も続けていきたい。</p>
---

#### 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
<p>2歳児保育に向けたスキルアップ</p>	<p>就園前の子どもの成長について学び直し乳幼児期と連携した育ちについて考えたり育ちの違いを見るため各学年相互で参観を行う。</p>
<p>保育の質を高めるため教員のサポート体制を整える。</p>	<p>I C T化を図って事務の効率を図ったり、園ホームページにて情報発信し人材確保を図り教員のサポート体制を整える。</p>

## 6. 学校関係者の評価

課題としては、おおむね達成できているとの評価だった。

保育計画や子どもが喜んで活動する環境整備等行えている。各々の教職員が持てる力を発揮できる環境を構築し更なる保育の質の向上を願う。

## 7. 財務状況

公認会計士監査により適正に運営されていると認められている。